

オオムラザクラ

中 世から明治維新に至るまで、大村地方を治めてきた大村氏。その拠点は大村館、三城城と移り変わり、一五九九年に、初代藩主となる大村喜前によって玖島城が築かれた。その後、二百七十余年にわたり、玖島城は大村氏の居城としてその役割を果たしてきた。

一八八四年、玖島城本丸跡に歴代の藩主を祭る大村神社が建てられ、現在では大村公園として大村市民に親しまれている。

大村公園といえは、季節ごとに咲く花々を思い浮かべる人も多いだろう。中でも、春は格別で公園内には約二千本の桜が咲き誇り、その種類はなんと二十一種。ソメイヨシノはもちろんシヨウゲツ（松月）、ギョイコウ（御衣黄）、カンザン（関山）、タカトオコヒガンザクラ（高遠小彼岸桜）、ヤエベニシダレザクラ（八重紅枝垂桜）……など、耳慣れない名前の桜が次から次へと咲き始める。

その中でもひとときわ目を楽しませてくれるのが、ソメイヨシノが咲き終えた後、見頃を迎える「オオムラザクラ」。えび茶色の蕾が満開時にはピンク色になり、その佇まいは優美そのもの。オオムラザクラは花びらが多いのが特徴で、少ないものでも六十枚、多いものになると二百枚もの花びらを付けるのだという。

玖島城の南堀に面した石垣は高く反り返り、勾配が美しい。こうした城の面影と共に桜を楽しめるのは大村公園の魅力だ。歴史と桜が織りなす風景を堪能してほしい。



大村公園には日本ならではの春の風景が広がっている。ゆっくりと散策するのがおすすめ。



幾重にも重なる花びらが
なんとも可憐な
オオムラザクラ。

花、満開。
めぐるほどに
心は春色に染められて。

